



地域の空間と営みを結う ～回遊性の創発による繁華街の活性化～

宇都宮大学大学院 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 遠藤康一研究室

永田大昂、石井蒼士、井上雄晴、千葉奈央、代永あかり、Sitna Chanzu

宇都宮大学 地域デザイン科学科 社会基盤デザイン学科 大森宣暁研究室

加賀谷瑠生、良知蒼大

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画

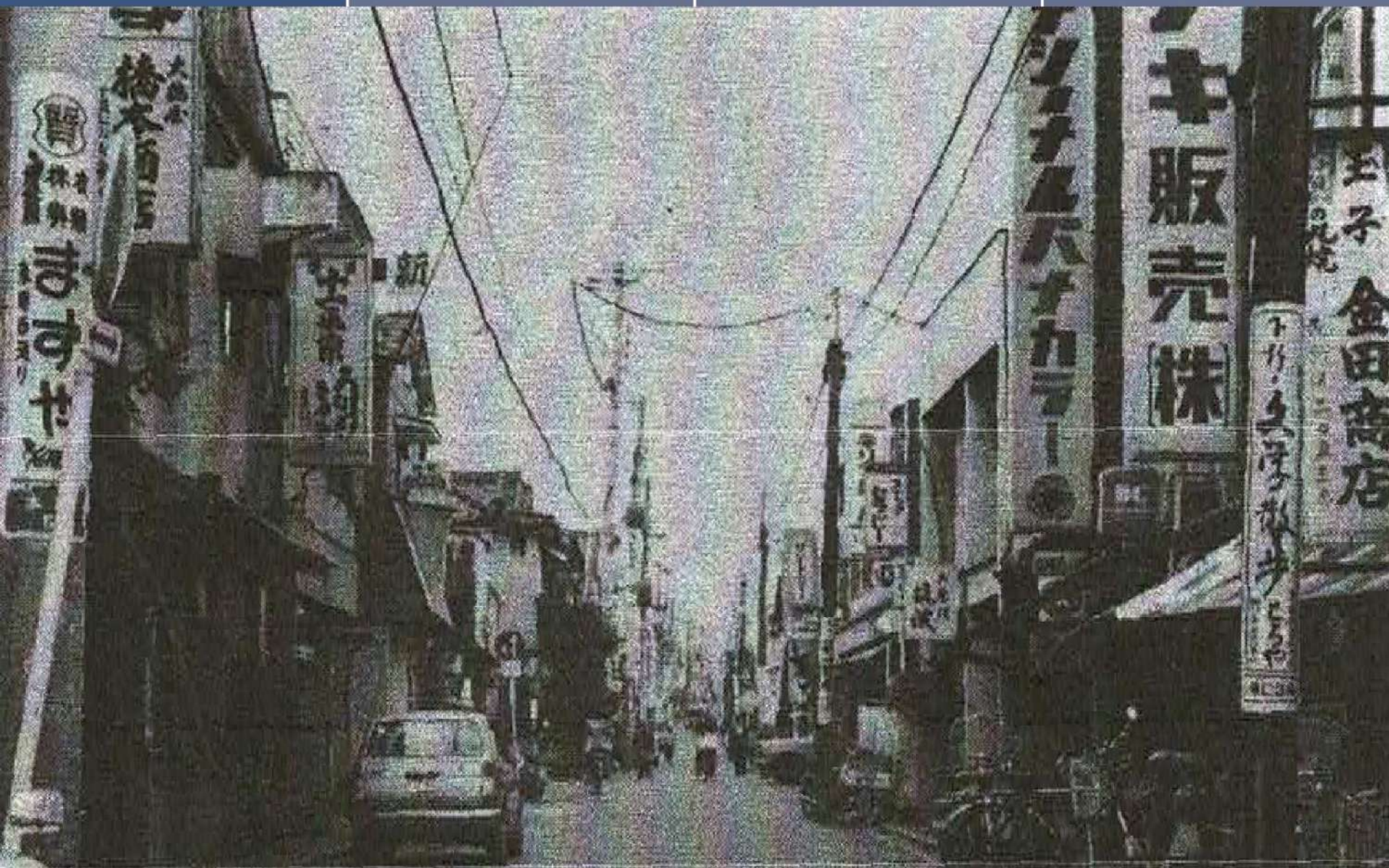
1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画



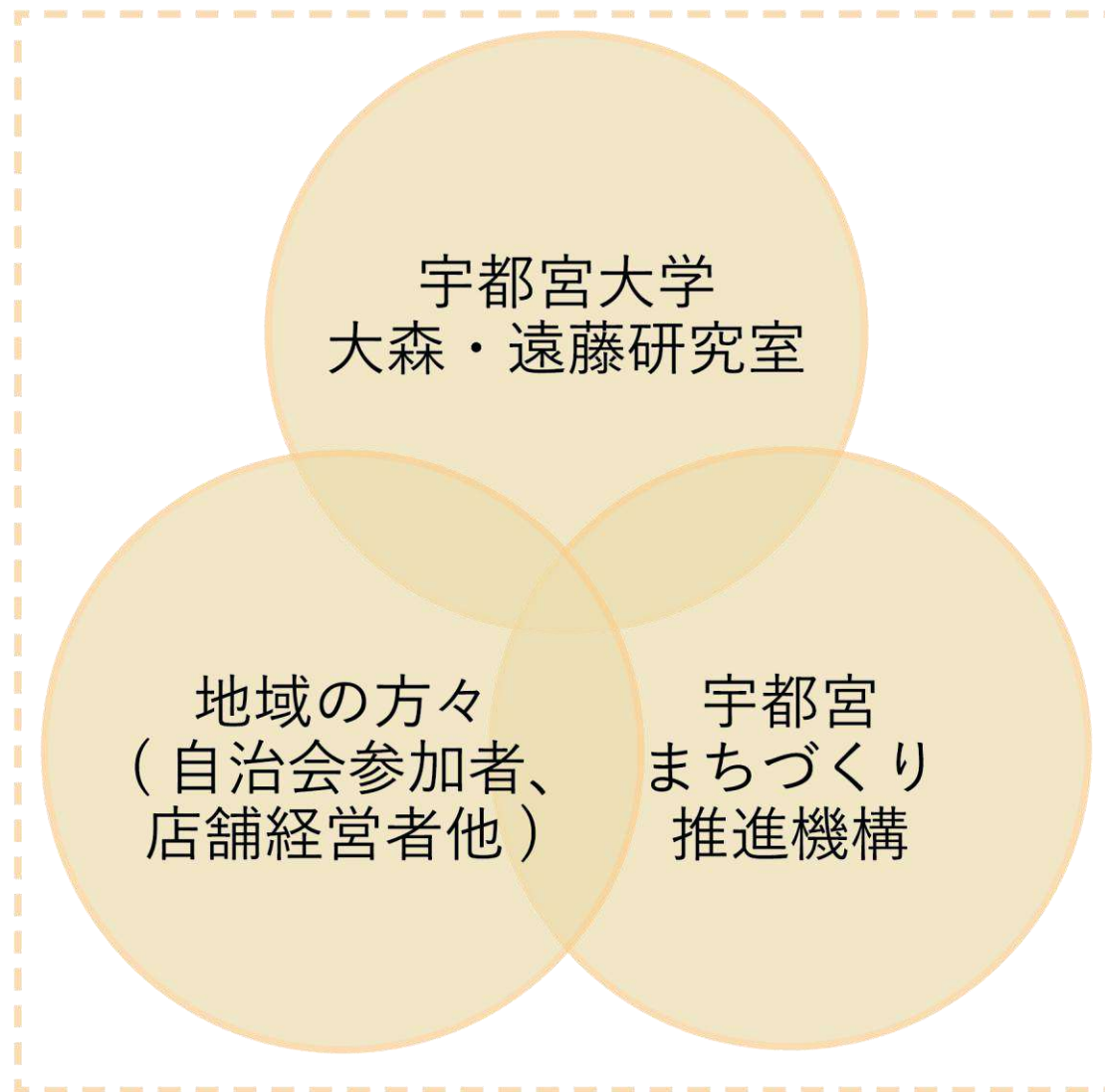


戦後～高度経済成長期・バブル景気には宇都宮市随一の繁華街として発展



景気の衰退などによってまちの縮退が起きている

泉町活性化プロジェクト



泉町・本町の活性化を目的として活動



会議の様子①



会議の様子②

宇都宮まちづくり推進機構主催の検討会の実施



2020年：夜のまち歩きスタンプラリーの様子

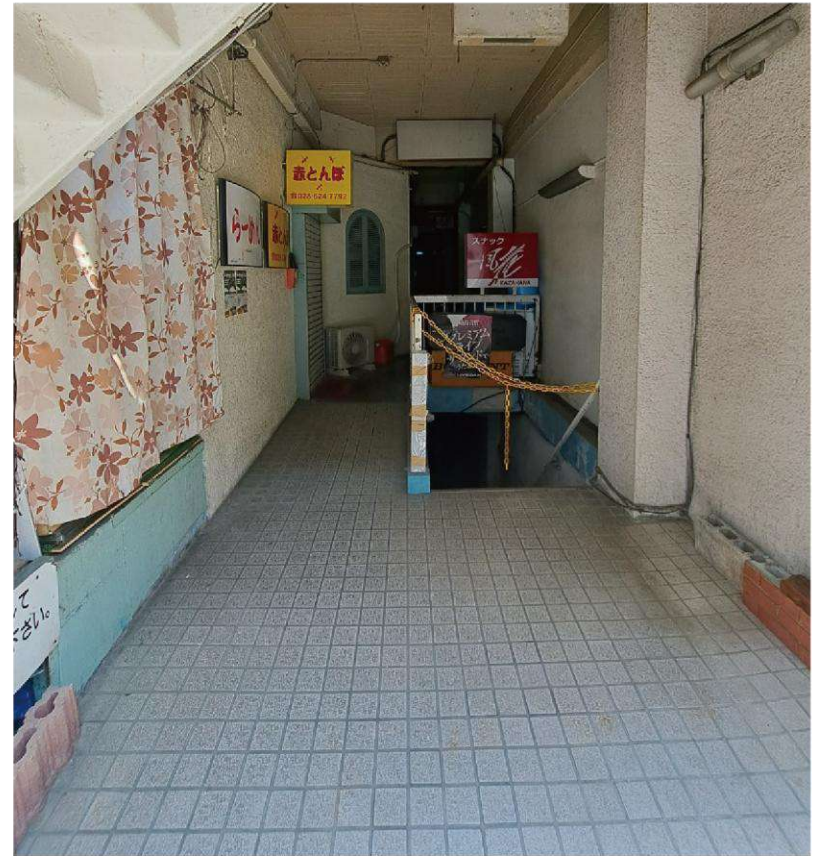


2022年：社会実験（ビアガーデン&テントサウナ）の様子

地域の方々と意見交換を重ねながら様々な取り組みを行ってきた

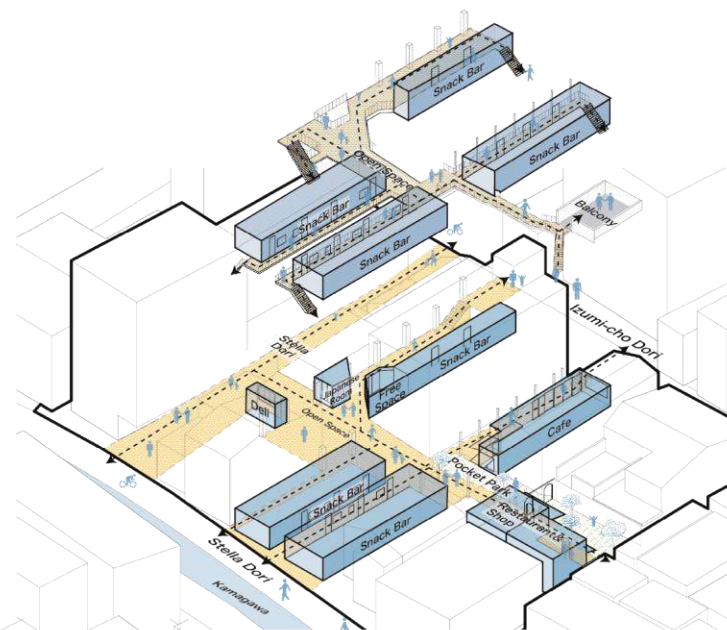


路地空間

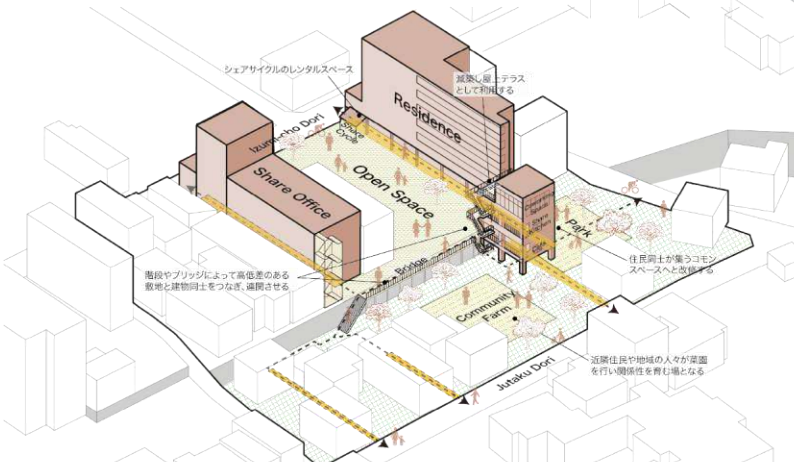


店舗へのアプローチとなる通路

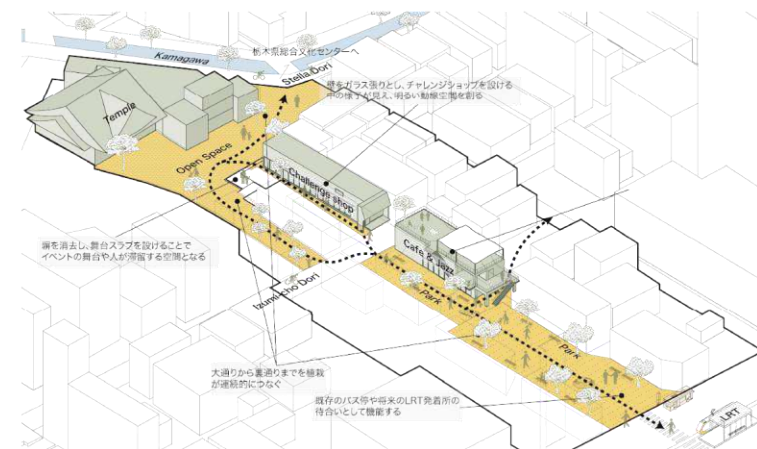
町内にみられる線状の空間（＝動線空間）が不活性であることに着目



ケーススタディ①



ケーススタディ②



ケーススタディ③

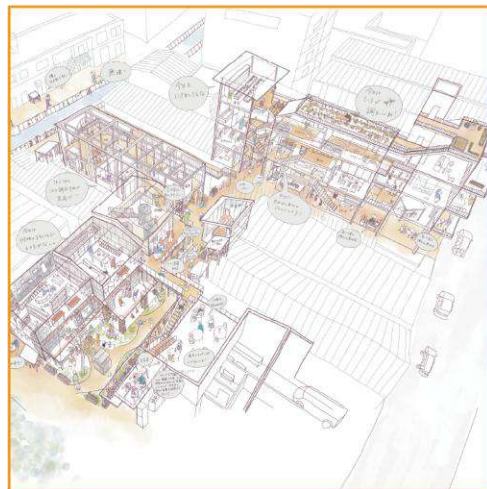
多様な都市活動が展開する空間として再編を行うケーススタディを提案
(2023年 大学生によるまちづくり提案)

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画



泉町・本町におけるコモンズモデルの作成



宇都宮まちづくり推進協議会との会議



ミニビアガーデン時の意見交換の実施

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
繁華街活性化	地域と学生の会議 （計画立案～イベント情報）			イベント開催 意見交換会			地域と学生の会議 （とりまとめ）	
	エリアリサーチモデル提案作成					ブックレット等の作成		
				バリアフリー調査、分析 （公共交通環境調査～データベース化）				
（地域団体の役割）	地域と学生の会議 （計画立案）			イベント実施補助				
						地域と学生の会議 （とりまとめ）		

コモンズによる繁華街による繁華街活性化の実現に向けて提案の作成、意見交換
など繁華街活性化の方向性を探ってきた

令和 6 年度

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)			イベント開催 意見交換会			地域と学生の会議 (とりまとめ)	
	エリアリサーチモデル提案作成			バリアフリー調査、分析 (公共交通環境調査～データベース化)		ブックレット等の作成		
(地域団体の役割)	地域と学生の会議 (計画立案)			イベント実施補助			地域と学生の会議 (とりまとめ)	

1. 活性化の検討

バリアフリー化の検討
空間活用の検討

2. 空間活用の試行と意見交換会の実施

泉町ミニビアガーデンの開催

1. 活性化の検討

バリアフリー化の検討

手法①

移動制約者と専門家とともに対象地域を歩き、
現地でバリアの特定を行なう

手法②

ワークショップを実施し、歩いた感想やバリアの改善点などについて意見交換をする

手法③

バリアフリーマップなどを作成し、宇都宮市の繁華街におけるバリアを可視化する

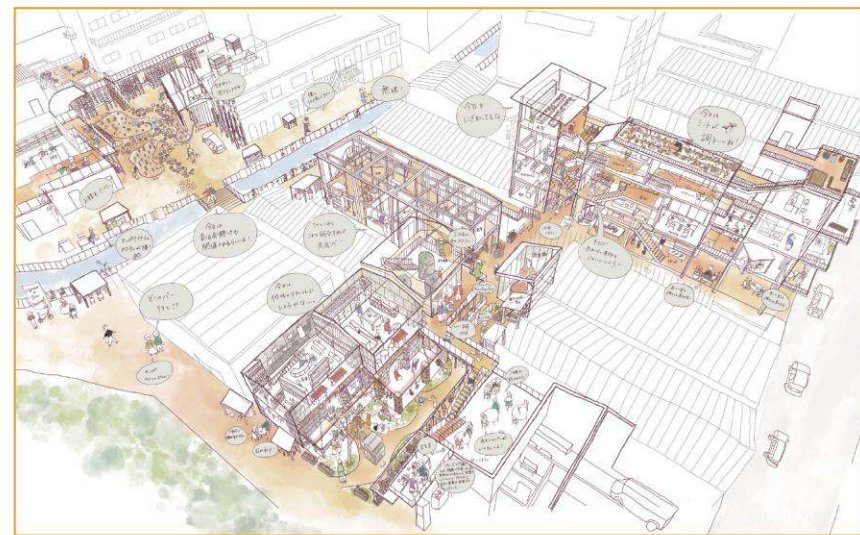


泉町の路上環境におけるバリアを発見し評価
→フィールドワーク調査
(まち歩きワークショップ)を実施

空間活用の検討



地域の方々へのヒアリングや調査を実施



まちの活性化に向けた将来像モデルの作成及び提案

2. 空間活用の試行と意見交換会の実施

泉町ミニビアガーデンの開催



発表の様子



模型を用いて説明をする様子

▽発表後の意見交換

質問者	質問内容
Fさん	・コミュニティファームは良いが、泉町の猫が多い観点から具体的な対策は考えているのか ・泉町は大人っぽい夜のイメージで一見さんは入りづらそうな印象を持っている
Aさん	・提案をどういう風に捉えればいいのかかわからない。具体的に何をすればいいのか。 誰が何に協力すれば良いのか明確にしてほしい。 ・提案するだけで相手に委ねるのではなくて相手を思いやりながら魅力をPRしていくべき ・新しくしていくものをどう重ねる？新しいものを既存の町に調整するのか並置するのか。 新旧のせめぎ合いをどう考えていくか ・泉町内だけではなく泉町の外の人から見た泉町のイメージや外の人が求めている考えも重要
Oさん	・町を繕うような活性化の方法は現代のトレンドであり、営みに着目し泉町の足りない部分を明らかにし、既存の営みから連続するようにその部分を繕おうとしているのが良かった。 ・宇都宮は楽しい場所で平面的に広がっている楽しさと立体的に積み重なった楽しさがある。 ・すぐできることと時間をかけて将来考えること、ハープ作りやマルシェ等はすぐできると思いい、段階的に構想することが必要と感じた。

▽アンケート1 「泉町・本町の魅力」

年齢	泉町・本町との関係	Q1.あなたが考える泉町・本町の魅力はなんですか
20代男性	その他(遊びに来た)	ディープな飲み屋スナック街
20代男性	その他	面白い飲み屋
20代男性	その他(宇大OB)	ディープな飲食店街の集合体
50代男性	その他	歴史ある歓楽街・繁華街
50代男性	居住者	県都の歓楽街としてのポテンシャル
50代女性	就労	宇都宮を代表する歓楽街
50代女性	その他	飲み屋街・大人の街・宇都宮市のディープな街
不明	不明	釜川を有するのが魅力では

▽アンケート2 「泉町・本町の課題」

年齢	泉町・本町との関係	Q2.あなたが考える泉町・本町の課題はなんですか
20代男性	その他(遊びに来た)	オリオン通りとの競合
20代男性	その他	一見で入りにくい
20代男性	その他(宇大OB)	大通りから認識しにくい、雰囲気若者としてはエリアに入りにくい
50代男性	その他	路地裏も含めてもっと歩いて楽しい街になる
50代男性	居住者	40年前の猥雑性をちょっと復活させるのと爽やかさの共存
50代女性	就労	空き店舗と21:00～の本通り通行止め問題
50代女性	その他	人通りが減ってしまっていて、いまだに敷居の高い雰囲気がある
不明	不明	住民がいなくなっている

- ・若者が泉町・本町に触れる機会がないのが現状
- ・通りからアクセスしにくい「空間の課題」
- ・店舗の担い手や来訪者の少なさといった「営みの課題」

令和 6 年度

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)			イベント開催 意見交換会			地域と学生の会議 (とりまとめ)	
	エリアリサーチモデル提案作成			バリアフリー調査、分析 (公共交通環境調査～データベース化)	ブックレット等の作成			
(地域団体の役割)	地域と学生の会議 (計画立案)			イベント実施補助			地域と学生の会議 (とりまとめ)	

1. 活動の継続

さらなる分析の継続

2. 提案を用いた議論の活性化

冊子のデザイン検討及び作成

1. 活動の継続

さらなる分析の継続

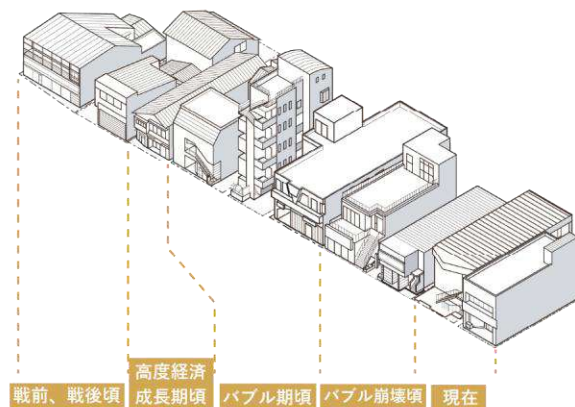
地方都市中心市街地における敷地構成と職種の変遷

- 宇都宮市泉町・本町の旧町人地エリアを対象として -

(東田雄崇 遠藤康一 他 2025 年日本建築学会大会)

空間的性格 配列的性格	屋根あり			屋根なし		
	変化あり、広い Ⅰ	変化なし、狭い Ⅱ	変化あり、広い Ⅲ	変化なし、広い Ⅳ	変化なし、狭い Ⅴ	
両側空地 あ	凡例 オ13-b 空、自看ケ室 動線空間 No.1 奥の空間 1段え			オ6 建、窓 ウ5 建、自給室	オ7 2建、窓 オ5 2建、廊下 オ22 空、窓 オ23 建、窓 A 外部たまり場型 (4)	ウ3 室、橋
片側空地 い	オ11 建、窓 オ18-a 建、窓 オ24 建、廊下 ウ10 空、廊下		オ3 建、自給ケ室 オ8 建、廊下ケ室		オ1 建、自給 廊下9 型、窓空 オ11 空、窓空 廊下13 型、窓空	
片側空地 う	オ19 空、自ケゴ B 凹凸ロジタイプ (5)	オ13-a 空、自看ケ室	オ17 建、橋 ウ2 空、植室	オ7 建、無 オ14 建、自給室 C 建物の連続性型 (4)	廊下1 空、無 D 建物の型型 (5)	
両側建物 え	オ15-a 建、窓 オ15-b 建、窓 オ16-b 建、窓ケ	オ10 1建、窓ケ オ12 建、右 オ20 建、右 オ21 建、自給 オ28-a 空、窓ケ オ4-b 建、窓ケ オ26-b 建、窓 オ28-b 建、窓 オ28-c 建、窓	ウ14 空、自給無ケゴ	ウ7 空、窓室	ウ12 空、廊下 ウ14 建、自給無ケゴ	
空地なし お	オ27 建、窓 オ29 空、無 E 建物の連続性たまり場型 (5)	F 内部通路型 (12)	オ4-a 建、廊下窓ケ オ16 建、窓ケ オ30 空、廊下窓		オ31 建、自給ケ室 H 路地型 (3)	

動線空間の空間的特徴と周囲に隣接する要素から
8つの動線空間の性格があることを導いた



雑多な街並みにみえる泉町・本町にも、歴史的背景を
踏まえた町独自の空間の成立過程があることを明らかにした

バリアフリー調査



問題点	良い点	解決策等の提案
- 車の通行量が多く、危険 - 電柱による通行の妨げ - 交差点に歩行者信号がないことと、車両用信号が高すぎることによる危険 - 道幅が狭く、車と歩行者の距離が近い - 自動販売機近くのゴミが通行の妨げ	無し	- 自動販売機の隣にゴミ箱を設置する - 側溝の目は細かいものにする

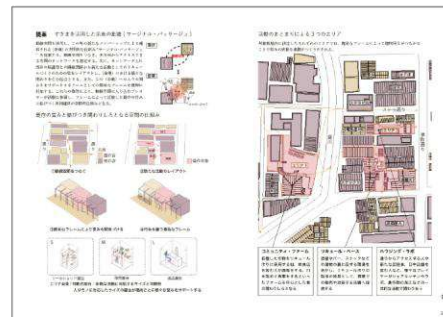
バリアフリー調査による空間の危険性

2. 提案を用いた議論の活性化

冊子のデザイン及び作成



助成金の一部を用いた模型写真の撮影（協力：乾写真事務所）



空間やコミュニティ課題、今後の展望を掲載した
町の将来像を考える冊子



表紙デザインの検討や歴史や暮らしを踏まえた
泉町・本町 MAP の作成



【冊子活用が想定される場面】

- ・ スナック、BAR など町内の店舗への配布を行い、活動の周知を広げる
- ・ 地域の方との今後の活性化のための会議に用いる
- ・ 町内外のイベント時に配布し、町外の方にも興味を持ってもらう

様々な人を巻き込み活動を広げながら
今後のアクションの具体化を進めていく

STEP1

町の将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する

STEP2

空間利用の実践

- ・将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等で実験的な空間利用を行なう

STEP3

活動を想定する

空間と営みを結び付け、空間に活動を定着させていく

前年度は町の分析と将来像の構想から泉町・本町の
「これまで」と「これから」について考えた

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画

STEP1

町の将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する

STEP2

空間利用の実践

- ・将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等で実験的な空間利用を行なう

STEP3

活動を想定する

空間と営みを結び付け、空間に活動を定着させていく

将来像をツールとして、社会実験などで実験的な空間利用を行なう

令和 7 年度

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)		動線空間活用実験 (イベント)開催				地域と学生の会議 (とりまとめ)	
		動線空間活用検討～社会実験準備				ポスター冊子等の作成		
				バリア実態調査・解消施策検討				
(地域団体の役割)	地域と学生の会議 (計画立案)		イベント実施補助				地域と学生の会議 (とりまとめ)	

1. 活動報告

県庁ナイトマルシェ
にて展示及び説明

2. 活性化の検討

営業店舗実態調査
バリアフリー調査

3. 社会実験兼イベントの検討

社会実験、イベントの内容検討
ボトルライトの作成

1. 県庁ナイトマルシェにて展示及び説明 (2025/05/30)



ブースを設けていただき、模型やプレゼンボードを展示
冊子を用いて説明

2-1. 営業店舗実態調査

調査項目

- ・営業している / 営業していない
- ・種別
- 1: 飲食を目的とした店舗
- 2: 従業員との交流を目的とした店舗
- 3: 廃業
- 4: 小売店
- 5: その他
- ・前回調査からの変化
- 1: 別の店舗となる
- 2: 「空き」となる
- 3: 新たな店舗ができる

図 1



図 2

【調査概要】

調査方法：目視による確認

調査日：7/4 8/18 11時～13時
9/9 20時～21時30分

調査項目：図 1

調査場所：図 2

【結果】

調査建築物 168 件

総店舗数 566 店舗

■営業店舗

昼間	67	店舗
夜間	255	店舗

■種別

飲食	48	店舗（居酒屋、定食屋）
交流	206	店舗（スナック、クラブ）
廃業	104	店舗
商店	9	店舗（コンビニ）
その他	48	店舗（病院、ホテル、銀行）

■前回からの変化

別店舗	133	店舗
空き	43	店舗
新店舗	2	店舗

2-2. バリアフリー調査

実施内容

町歩きバリアフリー調査

地域住民への意識調査

照度測定とデータ分析による評価



調査結果をもとに、照度不足の改善、案内サインの設置、防犯対策の強化など、夜間における安全で安心な歩行環境の実現に向けた提案を行う



バリアフリー調査



照度測定



照度測定（昼）



町歩き調査

STEP2

空間利用の実践

- ・ 将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造
- ・ 町の姿から社会実験等で実験的な空間利用を行なう

『動線空間』…通りに面する路地や建物を貫通する線状の空間



▷かまがわブロムナード付近の路地



▷ステラ通り



▷正行寺



回遊性をテーマに町に点在する動線空間を活用

3-1. 社会実験兼イベントの検討



泉町・本町ミニピアガーデン（社会実験）
歩いて発見！泉町 ～動線空間を活用した回遊体験～

1.背景・目的



泉町・本町エリアは、かつて宇都宮駅の繁華街の中心をなした場所であり、暮らしと産業が活況を呈した都市の情熱が現在まで引き継がれている。しかし近年は、都市構造の変化、高齢者の高齢化、定住化と事業撤退の停滞による店舗数の減少等により、まちの流動性の中間化と縮小がみられるようになり、そのような中、宇都宮大学建築研究室では、繁華街に多様な都市活動を呼び出す余地を見出し、実践へとつなげる活動を昨年度から行っている。

今年度は、空間活用を実践的に展開するため、**泉町・本町のまちと商業交流を行うとともに、動線空間（左図）に着目した空間活用実験を実施すること**を通じて、泉町・本町の都市空間と人々の活動が交差することにより創発される、**地域の回遊性のあり方を検討し、共有すること**を目的とする。具体的な取り組みとしては、動線空間活用検討に向けたタウンミーティングの開催、動線空間を活用した社会実験の実施を検討している。

2.これまでの活動

STEP1（これまで）

まちの将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する。

STEP2（現在）

空間利用の実践

将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造。町の姿から社会実験などで、実験的な空間利用を行う。

STEP3（これから）

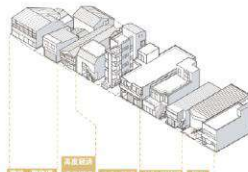
活動を想定する

空間と営みを結びつけ、空間に活動を定着させていく。

これまで、左の3つのSTEPに基づき、まちの分析と将来像の構想から、泉町・本町の「これまで」と「これから」について考えた。

泉町には、表通りと裏通りに覆って路地や建物を貫通するような線状の遊歩空間が多くみられる。私たちはそれらを「動線空間」と名付け、構成学的観点から研究分析を行ってきた。エリアサーチや空間活用実験を通じ、建築学会コンペでの発表を行った。

また、泉町ステラ通りでのピアガーデンや泉町前のナイトマルシェでの地域の人々へ説明を行うなど、動線空間の活用についての意見交換を行ってきた。



ピアガーデン



建築学会コンペでの模型



ナイトマルシェ

4.今年度の取り組み

①イベント企画 日時：2025.11.07（金）17:00~20:00

【目的】

スタンプラリーやフォトコンテストの企画を通して、泉町の動線空間を実践的に活用し、新たな回遊の体験の創出を目指す。また、泉町を歩く体験を通して参加者各々が町の魅力を発見し、ピアガーデン等のまちの活動に魅れることで、賑わいのある繁華街としての将来像を共有する。

【内容】（検討事項）

①フォトイベント

泉町内を回遊しながら印象に残った場所・魅力的に感じる空間の写真を持ってもらい、それらを収集する。また、参加者にもインスタにハッシュタグ付きで投稿してもらう。

例：お気に入りの場所などの写真を3つ撮影し、Instagramにハッシュタグ付きで投稿してもらった人にビールやソフトドリンク1杯無料など

②スタンプラリー

スタート地点となるブースは複数設置し、最初に泉町に関するクイズが書かれたスタンプシートを配布。クイズを解くことで分かる泉町内にあるいくつかのスタンプ地点を見つけていき、シートを完成させ、泉島と交換。

例：スタンプラリーがであるアプリと連携してミッション（3つのエリアに設置してあるスタンプを回収）などを達成した人にビールやソフトドリンク1杯無料など

②社会実験

【調査目的】

泉町には、狭い裏路地や、複数の店舗が入っているような建物が集まっている場所、釜川が流れる沿道など、多様な空間がみられる。

そこで、今回の調査では、特定エリアの通り抜けと滞留の有無を調べることで、空間活用の実践的な展開とエリア内の回遊性のあり方を検討する。

また、泉町を歩く人々がどのような空間を魅力的に感じるかについて、イベントの企画と連携して調査することで、泉町内の賑わい形成につながる空間の発見を目指す。

【調査内容】

①イメージ調査

イベントで泉町内を回遊しながら印象に残った場所の写真を持ってもらい、それらを収集することで、人々が通りを歩く中で経験する場所に対するイメージを調査する。

②アクティビティ調査（検討中）

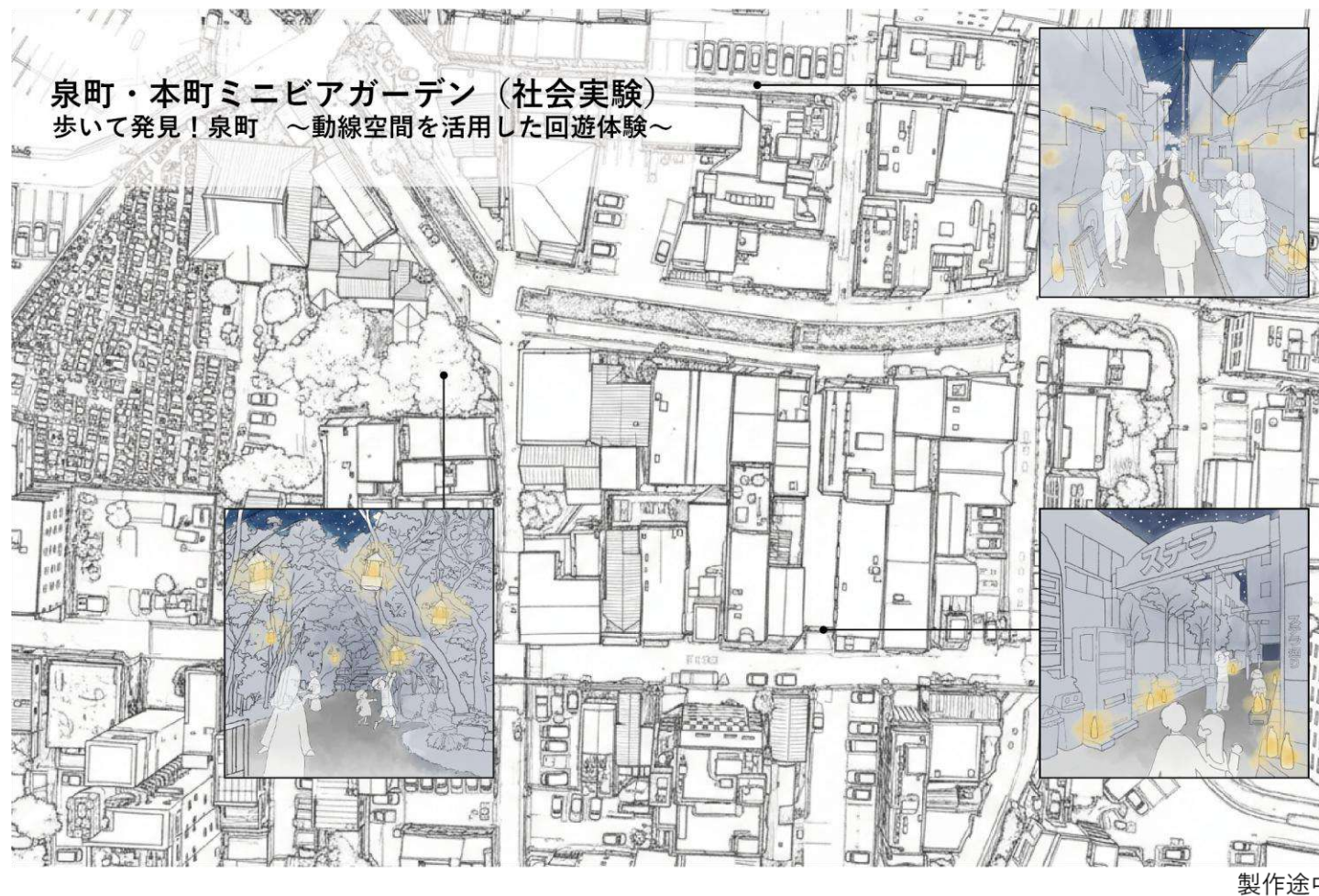
各ポイント（A-C）にて、通り内部での人々の活動を記録することで、滞留・回遊の様子を調査する。また、通りの入り口にて、人々の出入りの方向・時間を記録することで、通り抜けの有無や滞留時間を調査する。



製作途中

イベント時のチラシや地図を作成、様々な人に説明をする際に使用

3-1. 社会実験兼イベントの検討



イベントの内容をビジュアル化した絵や当日の地図にもなる絵地図を製作

3-1. 社会実験兼イベントの検討

1. 背景・目的



動線空間の例

泉町・本町エリアは、かつて宇都宮の夜の繁華街の中心をなした場所であり、暮らしと生業が混在した都市の様相が現在まで引き継がれている。しかし近年は、都市構造の変化、来街者の年齢構成の変動、高齢化と事業継承の停滞による店舗数の減少等により、まちの活動の単調化と縮小がみられるようになった。そのような中、宇都宮大学遠藤研究室では、繁華街に多様な都市活動を生み出す余地を見出し、実践へとつなげる活動を昨年度から行っている。

今年度は、空間活用を実践的に展開するため、**泉町・本町の方々と意見交換**を行うとともに、動線空間（左図）に着目した**空間活用実験を実施すること**を通じて、泉町・本町の都市空間と人々の活動が交差することにより創発される、**地域の回遊性のあり方を検討・共有すること**を目的とする。具体的な取り組みとしては、動線空間活用検討に向けたタウンミーティングの開催、動線空間を活用した社会実験の実施を検討している。

2. これまでの活動

STEP1 (これまで)

まちの将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する。

STEP2 (現在)

空間利用の実践

将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造。町の姿から社会実験などで、実験的な空間利用を行う。

STEP3 (これから)

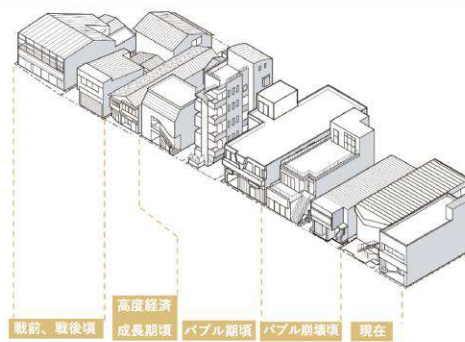
活動を想定する

空間と営みを結びつけ、空間に活動を定着させていく。

これまで、左の3つのSTEPに基づき、まちの分析と将来像の構想から、泉町・本町の「これまで」と「これから」について考えた。

泉町には、表通りと裏通りに面して路地や建物を貫通するような線状の道空間が多くみられる。私たちはそれらを「動線空間」と名付け、構成学的観点から研究分析を行ってきた。エリアサーチや空間活用実験を通じ、建築学会コンペでの発表を行った。

また、泉町ステラ通りでのピアガーデンや県庁前でのナイトマルシェでの地域の人々へ説明を行うなど、動線空間の活用についての意見交換を行ってきた。



ピアガーデン



建築学会コンペでの模型



ナイトマルシェ

泉町活性化プロジェクトを知らない人でもわかるように
背景や目的、これまでの活動を掲載

3-1. 社会実験兼イベントの検討

4.今年度の取り組み

①イベント企画 日時：2025.11.07（金）17:00~20:00

【目的】

スタンプラリーやフォトコンテストの企画を通して、泉町の動線空間を実践的に活用し、新たな回遊の体験の創出を目指す。また、泉町を歩く体験を通して参加者各々が町の魅力を発見し、ビアガーデン等のまちの活動に触れることで、賑わいのある繁華街としての将来像を共有する。

【内容】

①フォトイベント

泉町内を回遊しながら印象に残った場所・魅力的に感じる空間の写真を撮ってもらい、それらを収集する。また、参加者にもインスタにハッシュタグ付きで投稿してもらう。

例：お気に入りの路地などの写真を3つ撮影し、Instagramにハッシュタグ付きで投稿してもらった人にビールやソフトドリンク一杯無料など

②スタンプラリー（要検討）

スタート地点となるブースは複数設置し、最初に泉町に関するクイズが書かれたスタンプシートを配布。

クイズを解くことで分かる泉町内にあるいくつかのスタンプ地点を見つけていき、シートを完成させ、景品と交換。

例：スタンプラリーができるアプリと連携してミッション（3つのエリアに設置してあるスタンプを回収）などを達成した人にビールやソフトドリンク一杯無料など

目的

動線空間を実践的に活用し、新たな回遊体験の創出を目指す

手法

フォトイベントを通して泉町内を回遊し、魅力的な場などを発見する

3-1. 社会実験兼イベントの検討

②社会実験

【調査目的】

泉町には、細い裏路地や、複数の店舗が入っているような建物が集まっている場所、釜川が通る道沿いなど、多様な空間がみられる。

そこで、今回の調査では、特定エリアの通り抜けと滞留の有無を調べることによって、空間活用の実践的な展開とエリア内の回遊性のあり方を検討する。

また、泉町を歩く人々がどのような空間を魅力的に感じるかについて、イベントの企画と連携して調査することで、泉町内の賑わい形成につながる空間の発見を目指す。

【調査内容】

①イメージ調査

イベントで泉町内を回遊しながら印象に残った場所の写真を撮ってもらい、それらを収集することで、人々が通りを歩く中で経験する場所に対するイメージを調査する。

②アクティビティ調査（要検討）

各ポイント（A～C）にて、通り内部での人々の活動を記録することで、滞留・回遊の様子を調査する。また、通りの出入り口にて、人々の出入りの方向・時間を記録することで、通り抜けの有無や滞留時間を調査する。

目的

空間活用の実践的な展開とエリア内の回遊性の在り方を検討

手法

イメージ調査を行い人々の興味や関心、視点などのイメージを捉える

3-1. 社会実験兼イベントの検討

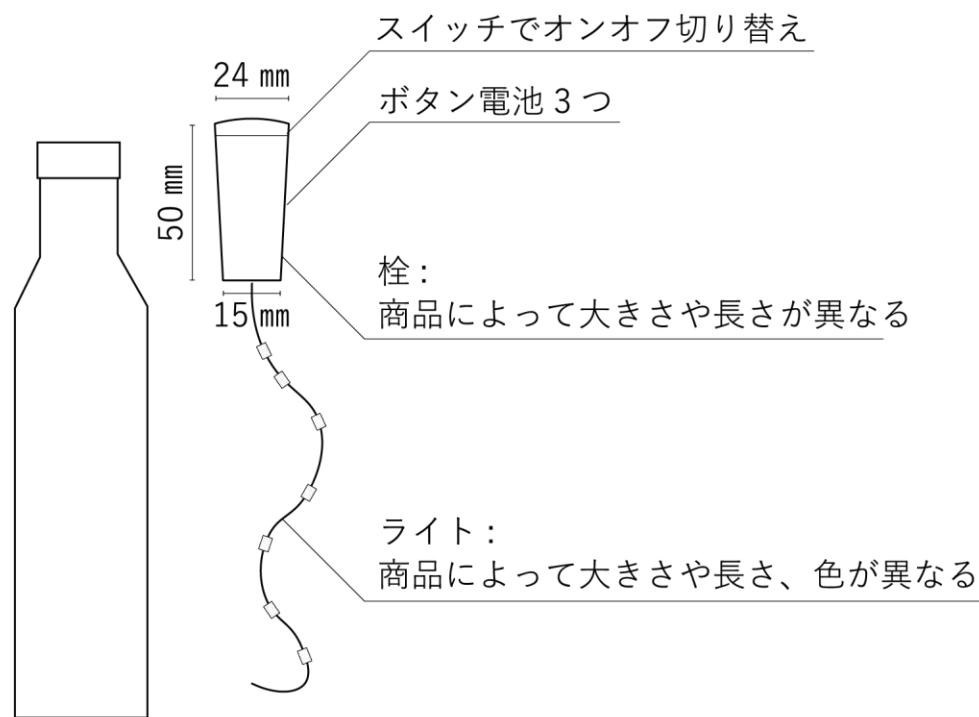


ステラ通りエリア、正行寺エリアをメイン会場として開催

3-2. ボトルライトの検討

【内容】

- ・ イベント実施にあたって街灯が無い場所などの空間演出や安全管理のため光を確保
- ・ スナックや Bar が特徴的な泉町にちなみ、空き瓶を活用したランプを製作

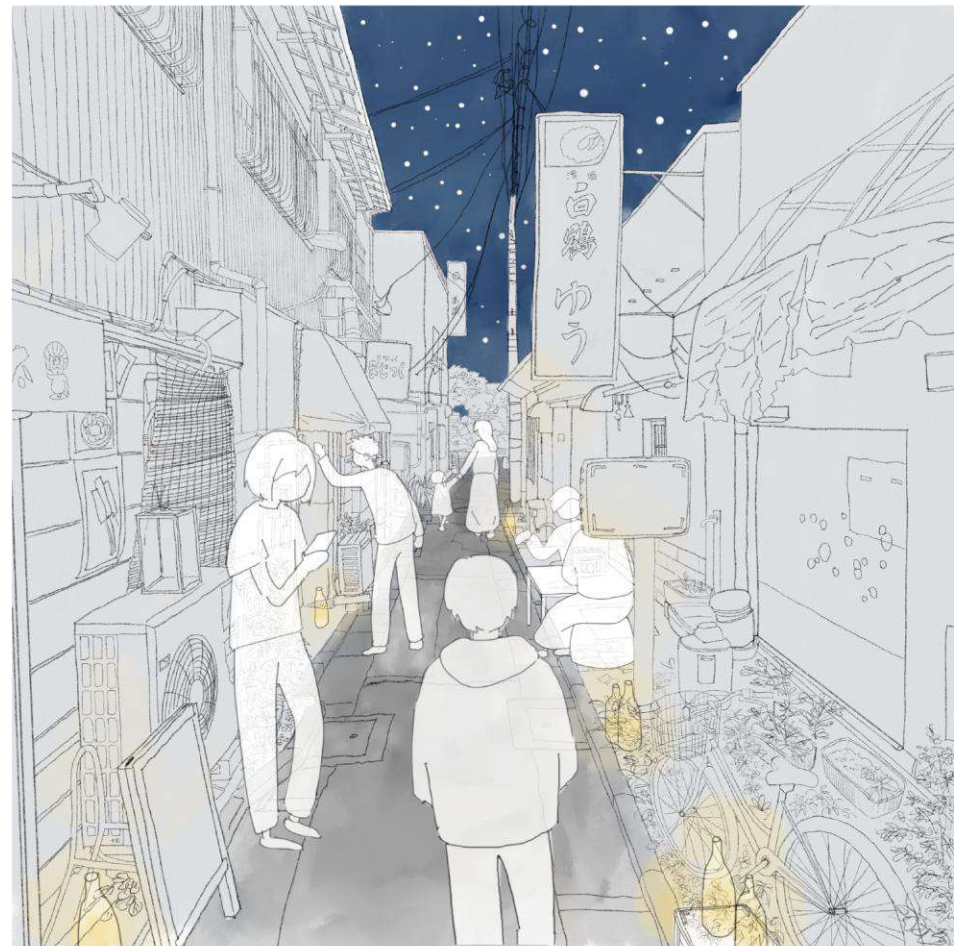


空き瓶を活用して光源を作成

3-2. ボトルライトの検討



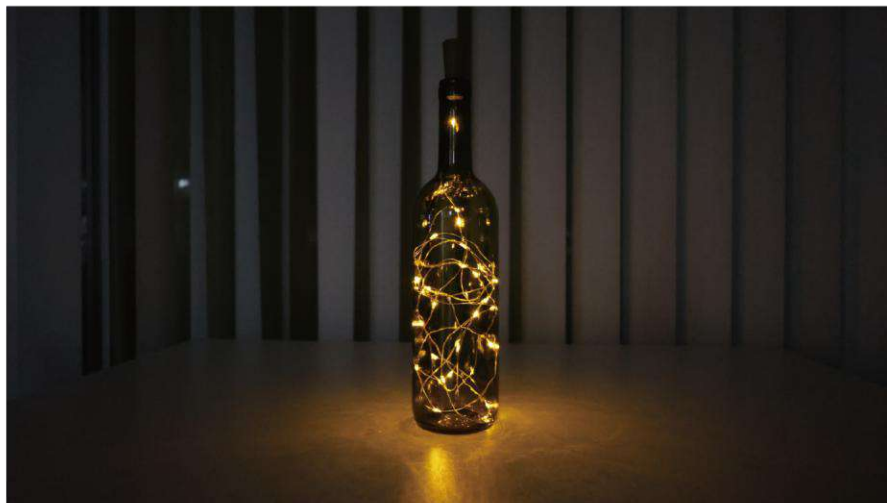
吊り下げ形式



天板及び地面設置形式

イメージ図を作成し、検討会で提案

3-2. ボトルライトの検討



試作品を製作したことで、ライトの色とビンの色や大きさで
光量や雰囲気が変わることがわかった

- 泉町活性化プロジェクト 2025 -

社会実験への
協力をお願い

宇都宮大学による調査
フォトイベント
&
ゲーム体験
を行う予定です。

ご協力いただいた方には
ドリンクサービス !!!

歩いて発見! 泉町
~ 動線空間を活用した回遊体験 ~



11.7 Fri 17:00~20:00

場所: 泉町通り (ステラ通り・正行寺近辺)

泉町活性化プロジェクト実行委員会

宇都宮大学地域デザイン科学部

泉町自治会

小伝馬町自治会

問い合わせ: 028-632-8215 宇都宮まちづくり推進機構



イメージパース

ボトルライト

ビールやワイン

会場地図

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画

令和 7 年度

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)		動線空間活用実験 (イベント)開催				地域と学生の会議 (とりまとめ)	
			動線空間活用検討～社会実験準備			ポスター冊子等の作成		
					バリア実態調査・解消施策検討			
(地域団体の役割)	地域と学生の会議 (計画立案)		イベント実施補助				地域と学生の会議 (とりまとめ)	

活動の継続

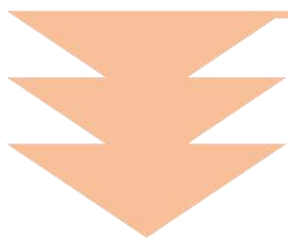
さらなる分析や検証

地域の意見交換会

タウンミーティングの実施

まとめ・今後の展開

動線空間やコミュニティ、昼と夜の活動、大通りと泉町通りの関係性など
泉町・本町における、潜在的な場所性を探る、引き出す



STEP1

町の将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する

STEP2

空間利用の実践

- ・将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等で実験的な空間利用を行なう

STEP3

活動を想定する

空間と営みを結び付け、空間に活動を定着させていく

まとめ・今後の展開

社会実験等と地域の人たちと意見交換を行い、場所の使い方を共有して、
今後の道筋を模索・想定をする

STEP1

町の将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する

STEP2

空間利用の実践

- ・ 将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造
- ・ 町の姿から社会実験等で実験的な空間利用を行なう

STEP3

活動を想定する

空間と営みを結び付け、空間に活動を定着させていく